

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	(有)快互 グループホーム太陽荘		
所在地	〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町大字又エ新田5-28-2 (電話)019-697-9400		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成21年2月13日

【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	25 人
職員数	26 人	常勤21人, 非常勤5 人, 常勤換算26人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代実費負担
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100, 000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1, 000 円		

(4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	24 名	男性	4 名	女性	20 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 66 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	(社)栃内第二病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社快互が運営する事業所で、県内唯一の3ユニットで構成されたグループホームである。ホームは、JR東北本線「矢幅駅」から徒歩で10分ほどのところに位置する。すかしの天井からはほどよい自然光が差し込み、2階のバルコニーから眺める岩手山の雄姿や遠方には幾重にも重なる山並みが一望でき、満ち足りた時間がゆるやかに流れているような落ち着いた環境にある。ホームは、連携と協働をシンボルとした「和」をキーワードに独自の理念を謳い、ユニット間の交流や助け合いなど、3ユニットの利用者および職員の調和が印象的である。職員は明るい笑顔で、利用者とのふれあいのなかで穏やかな暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	懸案事項であった、運営推進協議会の委員として自治会長から快諾を得たことにより、地域への橋渡し役として活動が実り、ホーム独自の催しである太陽祭の盛り上がりや避難訓練への参加など、地域連携の充実が図られてきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットの独自性を表記してみようという申し合わせの基に、ユニット毎の全職員で評価に取り組んでいる。表記上の難しさもあったが、日々のサービスの見直しへのよい機会となったとしている。外部評価の機会にあわせて3ユニット全職員で検討したいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進協議会は2ヵ月に1回開催され、直近の会議では、入居者の状況や活動報告、太陽祭への取り組みなどについて活発な意見交流がなされている。また、議事録の概要については、「太陽荘通信」で関係機関や地域住民にお知らせしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回の「家族介護教室」の開催、定期発行の「ぽっかぽっか通信」、利用者ごとの「手紙」では、本人の暮らしや健康状態、改善に関わる連絡などために報告し、理解や協力を得るようにしている。面会時には、健康状態や受診後の様子、悩み相談対応のほか、金銭報告は毎月コピーで家族へ送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町主催の行事・保育園、児童館の行事(運動会・文化祭)などへの参加や作品出品、また、「太陽荘通信」でホームの行事をお知らせしたところ、親子や児童館の子供たちで賑わった。また、近隣者の来荘や野菜などの差し入れなどもあり、地域交流の高まりや場の広がりとなってきている。これらは、新たに運営推進協議会の一員となった自治会長の働きが大きな原動力となっている。

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニット共に「和」をキーワードに、6つのキャッチフレーズ(和・話・輪・笑・私・技)を謳い、日々のサービスの座標軸として話題にしながら、日々のケアのモチベーション向上につなげる取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	キャッチフレーズを「和やかな雰囲気」「笑顔を忘れず」「みんなで楽しく」等と分かりやすい表現にして、見やすい場所に掲示し、会議等で話題にして職員の意識化を図っている。さらにはMKK(目配り・気配り・気働き)を介護職の条件として、サービスの向上につなげたいとしている。	○	モチベーション向上に向けた「介護五つの条件」は、分かりやすい表現であり、介護心得や日々のサービスの振り返りへの指標となります。職員相互に意見交流を交わしながら、サービスの質の向上につなげることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の行事、保育園、児童館の行事などへの参加や作品出品、太陽祭行事には近隣の親子や児童館の子供たちで賑うなどの交流と共に、近隣の来荘や野菜の差し入れなどもあり交流が広がっている。これらは、新たに運営推進協議会の一員となった自治会長の影響が大きな原動力となっている。	○	運営推進協議会に加入した自治会長への期待はもとより、地域住民向けの「太陽荘通信」発行は、地域におけるホームの運営や認知症への理解・関心を高める大きな力となります。さらに地域の交流を場と広げるよう、継続して発行されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットの独自性を表記してみようという申し合わせの基に、ユニット毎の全職員で評価に取り組んでいる。表記上の難しさもあったが、日々のサービスの見直しへのよい機会となったとしている。外部評価結果を待って3ユニット全職員で検討したいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録は、「太陽荘通信」で関係機関等に公表している。懸案事項であった町内会長の委員委嘱の快諾により、近隣地域への橋渡しが柔軟に展開できるようになったとしている。今回は、避難訓練への近隣住民への通報や協力体制のあり方を検討するとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者との利用状況・空部屋情報などの問い合わせのほか、介護保険課や包括センター等からは、利用者に関わる困難事例等について助言を頂くなどの連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回の「家族介護教室」の開催、定期発行の「ぽっかぽっか通信」、利用者ごとの「手紙」では、本人の暮らしや健康状態、改善に関わる連絡等まめに報告し、理解や協力を得ようとしている。面会時には、健康状態や受診後の様子、悩み相談対応のほか、金銭報告は毎月コピーで家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートで得た要望や意見などはミーティング、カンファレンスで取り上げ運営に活かすよう努めると共に、結果等については、推進会議や家族介護教室で報告し、意見交流を得る機会としている。目下、家族会の立ち上げを検討中である。	○	「家族アンケート」は、介護サービスの改善へ反映させる最も身近な情報であり、貴重な資料となるため、更なる検討を加えながらの継続実施が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ避ける方向で運営している。しかし、異動を余儀なくされる場合には、ユニット間の異動者や新採用職員と利用者との馴染み関係を構築できる時間を十分に設定し、利用者の不安などを最小限にとどめるような手だてや配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム協会に加入し、協会主催の実践発表交流会、更には地域ケア会議、資格取得等各種研修などに参加するよう奨励しているが、事業所として全職員を対象とした計画的な研修体制は課題としている。	○	各ユニット利用者の状況に応じた介護や対応のありかたを目指す勉強会等のほか、3ユニット全職員を対象とした意図的・計画的な年間計画の策定とその実施を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内グループホームの施設見学、情報交換交流、県協会主催の実践発表交流会への参加報告会、地域ケア連絡会での事例検討会、また、全職員参加による全体会議においてユニット毎の検討結果を報告し、意見交換するなど、職員の資質向上につなげる取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の相談や見学、また昼食を共にしながらホームの雰囲気を体験してもらうなどのほか、職員が利用者宅を訪問してアセスメントを実施するなど、時間をかけながら馴染んでいただけるような取り組みに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物やお琴の先生だった利用者と来訪する教え子たちとの談笑、カラオケによる童謡や昭和の歌など、利用者の意向や望む気持ちを大事にする支援に努めている。調理場面では、包丁さばきや盛り付けなどを教えてもらったり、感謝の言葉をかけたりする関係づくりの中で、喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでも、利用者の表情などを記録に止めてきたが、センター方式の導入により、個性を捉えた記録が容易になったとしている。入浴時や車中等でのコミュニケーションも多岐に渡るようになり、この状況を利用者一人ひとりの新たな発見や関心につなげたいとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本情報の追加記録や「申し送り(観察支援記録)」や「連絡帳」などを評価に反映させ、職員間の意見調整を図り、実情に即した見直しとなっている。夜勤は、ユニットごとに一人ずつの3人体制となっていることから、不穏な利用者や緊急時への迅速な連携体制が可能となっている。	○	3ユニット全職員のチームワーク(事業所体制)は、「太陽荘」ならではの連携体制であり、計画策定時にも多くの職員からの多様な意見を参考にできることは事業所の強みである。今後も様々な場面において職員間の協力体制が活かされることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を原則にし、評価記録等も家族に説明している。また、介護計画の検討に家族も参加するなど、実態理解に向けた取り組みもなされている。センター方式をより有効に活用することで、介護の質向上へつなげたいとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3ユニット合同行事として、太陽祭、クリスマス会、花見と温泉旅行のほか、各ユニットではそれぞれに理美容、買物支援などを実施している。またドライブで利用者のふる里訪問をして、家族や知人との歓談を楽しむなど、本人の視点や要望にたった柔軟な対応となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員による利用者状況について詳細な記録のもと、全職員が周知している。定期的な通院介助支援はホームで対応し、診療結果は家族に報告している。盛岡市内など遠距離のかかりつけ医への受診は、家族にお願いしている。なお、全利用者がインフルエンザ予防接種を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りケアについては取り組んでいないが、重度化に対する指針や介護のあり方は早急の課題となっている。まずは、重度化における対応指針の作成に取りかかりたいとしている。	○	重度化対策は、介護のあり方が問われるのに対して、看取り支援は、医療連携体制と家族環境の調整が不可欠であり、事業所としてすぐに対応することは難しいと考えている。当面は重度化対策として、どういことを課題として向き合うかについて話し合い、その体制(指針・マニュアル)作りに着手されることを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録票等は、利用者の目の届かない所に置き、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応を徹底している。特に、トイレ誘導など、羞恥心を損ねたりしないような配慮や対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日記を書き続けたり、化粧品に凝ったり、趣味の編み物、得意の琴や塗り絵、歌などに興じたり、また、30分の散歩コースを気ままに歩いたり、ドライブや買物に出かけたりなど、その人の希望や意向に添うように見守りながら支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、食事準備への関心や役割意識を促すような声がけをしなが、調理の準備から後始末まで利用者と一緒にしている。職員も伴食しながら、刻んだり、ほぐしたり、食欲をそそるような会話を交えながら、一人ひとりのペースに配慮した支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前後の留意事項(入浴習慣がなく拒否する、一番風呂希望)を個別的にファイルしている。1日おきを原則としているが、希望者は毎日でも入浴できる。1対1の入浴時は、利用者が心を開いて個人的な話を聞けるため、気持ちが開放的に入浴を楽しめるよう、より検討していきたいとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニットごとに特徴ある取り組みもあるが、調理作りや後片付け、モップがけや洗濯物たたみの手伝いなど、それぞれに役割を果たしている。また、編み物や琴、塗り絵、カラオケに合わせた手踊りなど、発揮する力を励ましなが、楽しみや気晴らしにつながるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望、意向に応じて、買物や散歩、ドライブ、全ユニットで温泉ツアーを楽しんだりなど、外気に触れる機会を設けている。また、重度化や冬季の運動不足対策としては、軽いストレッチや歌と踊りの組み合わせるなど、工夫を凝らした健康管理や気分転換に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの状態を細やかにチェックすることで、施錠せずに自由な暮らしを支援している。習慣として居室の内鍵をしたり、こまめに消灯する利用者、煙草を吸う利用者もいるが、適時に誘導や声がけすることで行動を制限することなく対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	4月の避難訓練では、避難時は履物(スリッパ)は不適切なことや2階からの誘導が指摘されている。訓練状況等は、「太陽荘通信」で地域にも配布し、ホーム理解や防災関心へつなげている。ユニット別3人の夜勤体制は、緊急時や防災への安心感となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	役場の管理栄養士の指導を受けながらの献立表となっている。糖尿病利用者に対しては医師の指示による管理となっているほか、一人ひとりの摂取経過は記録に表わし、刻み食などの支援もしている。水分補給は食事前、後、間食時、入浴前後のほか、状態に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階ユニットは、すかし天井からの自然光が差し込み快い共用空間である。利用者は、テレビ鑑賞やソファでの談笑、ゲームを楽しむなど、ゆったり過ごしている。2階のバルコニーは、ベンチにゆったりくつろぎながら四季の変化する山々や田園の情景を眺望したり、利用者と語り合うなど、各ユニット間の交流の場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの部屋に近づけるように、家族と相談しながら、使い慣れた家具、位牌・遺影、また趣味の編物、塗り絵、楽器(琴・ハーモニカ)など、気に入ったものを持ち込むなど、自分らしく過ごせるような居室となっている。		